

子どもが自律的に学ぶ力を育むために教師はどのような指導・支援を行えばよいか

—しなのイエナプランスクールの算数ブロックアワーの時間を事例に—

## 山西 隆治 教職基盤形成コース 教育課題探究プログラム

キーワード：自律的な学び，自己調整学習，ブロックアワー，学びのマップ，振り返り

### I. 問題の所在と研究の目的

2020 年度の新型コロナウイルス感染症による臨時休業のとき，子どもの学びを保障するため，プリント集を教師が作り，家庭に配布し取り組ませた。しかし保護者から「子どもが自分の力で計画的に家庭学習を進めることが難しい」との連絡がきた。これまでの自分の取り組んできた授業づくりを振り返り，「クラス全体でそろえる授業や共通に理解させることばかりに注力し過ぎていたのではないか」，「自ら学ぶ力を育てこななかったのではないか」と考えるようになった。

そこで，本研究では，子どもが自律的に学ぶ力を育むために，教師はどのような指導・支援を必要とするのかを明らかにすることを目的とした。

### II. 研究方法

#### 1. 文献研究

「自己調整学習」，「個別最適な学び」をキーワードとする文献や，イエナプラン教育に関する文献をレビューし，自律的な学びに関する理論を深めた。

#### 2. フィールドワーク

2021 年 6 月～2022 年 11 月の期間に，自律的な学びを実践している長野県内の複数の学校（木曾町立福島小学校、軽井沢風越学園）を訪問調査した。

#### 3. 試行実践（茂来学園大日向小学校での実践）

(1) 自律的な学びを育むための手立て

- ①ブロックアワー（自分で選択し，自分で計画を立てて進める学習）を活用した取組み
- ②学びのマップの活用→③クラス全員でのブロックアワーの振り返りの時間の設定

(2) 子どもそれぞれの学びの見取りの確認

- ①スケジュール管理アプリ「プランプラン」による確認→②クラス全員での話し合いによる振り返りの記録分析→③個々の学習履歴の分析

### III. 研究内容

#### 1. 自律的な学びの理論と実践



礎的・基本的な学習や、ワールドオリエンテーションに必要な内容についての課題を設定し、子どもたちはどのように学ぶかを計画し、それぞれに合った方法で自立的に学習する。

⑤ワールドオリエンテーション：学校全体で取り組むテーマに沿って、教科横断的に学習を進め、実際に世界で起こっていること（身近なことから地球規模のことまで）について、教科学習で学んだことを活用し、グループのメンバーと協力しながら総合的に学ぶ。

## (2). 大日向小学校における試行実践

### 【予備的实践】（事例：下学年の国語科の単元）

2021 年 11 月に 3 年生を対象に、国語科の教科書（光村図書）の説明文「すがたをかえる大豆」で単元内自由進度学習に取り組んだ。単元内自由進度学習では、単元の始めと終わりをクラス全体で行い、それ以外は子どもが自分で学習計画を立て、自分のペースで進め、学習場所も自分で決めて一人学びを進めた。一斉授業と比べて、子どもが自分で考える時間を十分に保障することができ、困ったときには自然なかたちで友だちに頼るなど緩やかな学び合いが成立していた。

一方で、教師の支援として、子どもが見通しを持ち、自分で計画して進めるための手立て（計画表づくり・自己評価など）が不十分だったこと、子どもが試行錯誤して学びを進める中でどのように個々の進捗状況を教師が見取っていくのかが課題となった。

### 【本実践】（事例：上学年の算数科の単元）

本実践は 4 年生を対象に、「わり算の筆算」を 12 時間扱いの単元として 2022 年 5 月下旬に行った。この単元では毎時間学びのマップを活用した。（図 4）また 1 学期の上学年スタッフ会議にて、算数における子どもの学びの中で、「自分で立てた 1 日分の計画を、自分で進める子とそうでない子の意識の違い」、「課題が積み上がってしまう子ども」、「友だち同士で『教えて』となかなか自分から言えない子ども」が話題にあがった。自己選択・自己決定を求めるブロックアワーの条件や、ツールとしての学びのマップだけでは、自律的に学ぶ力を育むことは十分ではないと考え、グループ（クラス）全体でのブロックアワーの振り返りの時間を毎日設定し、「今日のブロックアワーのよかったこと」と「明日のブロックアワーでやりたいこと」を毎日共有していった。

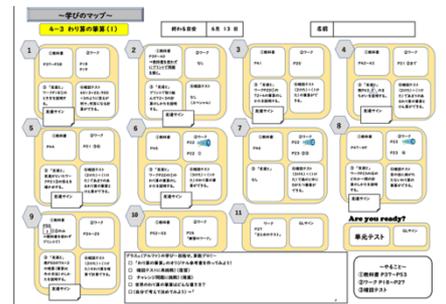


図 4 学びのマップ

2022 年度は、上学年の算数科で単元を丸ごと見通せる学びのマップを活用して、子どもが一人学びをできるように取り組んだ。算数一コマ（45 分）で、教科書→ワーク練習→ペアトーク→確認テストの流れを基本とした。

クラス全体の対話による振り返りではお互いの自己学習の悩みを出しあい、どうしたら問題を克服できるのか考え合う時間として設定した。そこで出された意見のうち、友達の学習進度が分からず相談しにくいという声に対してはネームプレートを導入して全員の進度が視覚的にわかるように対応した。また、学年が異なる人には質問しにくいという声に

は対しては、学年単位で集合して学び合う算数の時間を設定し、心理的安定性高めて聞き合うことのできる場を設定した。さらに支援が必要となる子どもには、それぞれの子どもの個性と進捗状況に応じて個別指導の時間を設定した。

#### IV. 本研究の成果と課題

##### 1. 成果

①自分で選択し計画を立てて進める学習のブロックアワーの仕組みの中に②学びのマップを取り入れ、さらに③一人学びを進めていく上での悩みや改善案をクラス全員で相談することが、子どもの自律的な学びを促進することがわかった。子どもが一人学び進めていく上で、自分の選択が生かされ、自分なりのペース配分を試行錯誤する中で、クラス全員の対話による振り返りの時間を保障したことによって、学習のうまくいかないことを出し合え、その時どうしたら良いのかという解決策を子どもたち同士で考えることができ、次時の学びへの意欲向上と計画の修正につながった。この①～③の手立ては、算数のブロックアワーで子どもが自律的学ぶ力を育むことに有効であった。

##### 2. 課題

子どもたちの多様性を認め自律的な学びを保障していくために、「学びのマップ」が多数の子どもには向いていたが、もう少し支援が必要な子どもや算数が苦手な子どもをもう少しサポートできるような学びのマップを再構成していく必要がある。また、自律的な学びに関する理論研究を試行実践の中で援用しきれない部分があったことが本研究の限界でもある。ジーママンの循環的モデルに照らし合わせ、子どもの学びを自己調整という側面から丁寧な分析を試みることにできていなかった。この点が今後の課題となった。

#### 注

注1 B・J・ジーママン, D・H シャンク編 塚野州一・伊藤崇達監訳

「自己調整学習ハンドブック北大路書房 (2014)

注2 自己調整学習研究会編「自己調整学習-理論と実践の新たな展開へ-」

北大路書房(2012)

注3 奈須正裕「個別最適な学びの足場を組む」教育開発研究所 (2022)

注4 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～答申」 (2021)

[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)